

第4回飯綱町子育て世代支援施設建設検討委員会（令和元年7月10日開催）

・出席委員

小林千登世 山口智美 清水由佳 眞喜志亜矢子 増田祐美 長崎夏美 松木春菜
太田光洋（長野県立大学健康発達学部こども学科長兼教授）
栗田喜美江（さみずっ子保育園長） 押鐘裕子（保健師）

・欠席委員

なし

・出席事務局員

桜井教育次長 若林子育て支援係長 横田保育士

・出席説明員

（株）アーキプラン 3名

開会 10:00

あいさつ

1. 子育て世代支援施設建設設計業務公募型プロポーザルの審査結果の報告

2. 協議事項

（1）新施設の全体像について

（株）アーキプラン様 技術提案の説明

（2）意見交換

（3）今後のスケジュールについて

3. その他

閉会 11:30

あいさつ

委員長：挨拶の言葉あり。

事務局：先日、子育て世代支援施設の設計についてのプロポーザルを行いました。その結果についてご報告します。株式会社アーキプランさんが設計を受注されたので、提案説明等をしていただく会議とします。

1. 子育て世代支援施設建設設計業務公募型プロポーザルの審査結果の報告

事務局：6月19日に、新しい施設の全体構想、実施設計、全体的な計画、来年度すぐ工事に入るための入札に至る細かな設計までの部分のプロポーザル審査を行いました。4社の提案のうち、株式会社アーキプランが最優秀候補になり、7月1日に正式契約となりました。もう既に測量を開始しており、10月までに基本的な設計をし、その後年度末まで工事発注のための細かな設計に入ります。

2. 協議事項

（1）新施設の全体像について （株）アーキプラン 技術提案の説明

委員長：では、新施設の全体像について、ご説明をお願いします。

アーキプラン：挨拶の言葉あり。私ども3人が中心となって進めていきますので、よろしくお願いたします。先日のプロポーザルの説明会の際の動画を使いま

して、全体の説明をさせていただきたいと思います。飯綱町を訪れるとき、谷道を抜けて急に開けた土地と、正面の北信五岳の風景を目にすると、飯綱町に来たことを実感します。大変日当たりが良く、広々としたこの土地では、誰もがのびのびと穏やかな気持ちで日々を過ごせます。また、飯綱町は自然の豊かさや首都圏からの利便性で、テレワークが育つ潜在力を持っていると感じます。このプロポーザルの計画に当たり、私たちは平成27年に策定された「飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「飯綱町人口ビジョン」を読ませていただきました。飯綱町を元気にするテレワークセンターで安心して働き、子育てができる環境を提供する施設、つまり、子育て世代支援施設に人口減少の歯止めをかける役割を持たせていることを理解しました。私たちは単に施設を建設するというだけでなく、町の皆さまと同じ気持ちで20年、30年先の未来をつくっていくという気持ちで、設計させていただければと考えています。今回の施設が、子育てと仕事の両立を図る施設となるのはもちろんであります。地域を巻き込んだ飯綱の未来を考える拠点となることを願って、提案させていただきます。

アーキプラン：飯綱の未来のために私たちが提案する建物のテーマは、「飯綱の緑豊かな環境で、のびのび働き、すくすく育つ子育て世代支援施設」です。まず私たちは、親子が安心してこの施設に通うために、ワークセンターと子育て支援センターという異なる機能をどのように両立させるのが良いのだろうと考えました。働きながら子育てをしているお母さんたちに話を聞いてみると、仕事に子どもの姿が見えてしまうと、仕事よりも子どものことが気になって仕事に集中できない、子どももお母さんの顔が見えると、お母さんのほうへ行きたくなくなってしまうのではないかという意見が出ました。また、現在ワークセンターで託児を利用しているお母さん方も、一度子どもを預けると、帰りまで子どもを見に来ることはないという話も聞きました。そこで私たちは、ワークセンターと子育て支援を吹き抜け空間でお互いの様子が見えるような構成にするのではなく、きちんと分けることが重要と考えました。分けることでお母さんは仕事に集中、子どもは遊びに専念できる環境をつくります。この内部構成により、子育て支援とワークセンターが良い関係でありながら、地域に開かれた施設としていきます。分かりやすく説明するために、最初にテーマ3からご説明していきます。地域住民との交流の工夫として私たちが提案するのは、豊かな環境を生かし、地域に開かれた園庭をつくるということです。配置図です。建物は敷地北側にコンパクトに配置し、既存樹木や藤棚はそのままに、遊具は移設して利用します。建物の左右にできる余白を利用して、生活の異なる3つの庭を設けます。丘のある庭、芝生の庭はフェンスで囲み、小さな子どもたちでも安心して遊ぶことができる庭とします。中央の緑の広場は、誰でも自由に遊べる公園です。小さな子どもたちは、アスレチックで遊ぶ年上の子どもたちの様子を見ることで、さまざまなことへ挑戦する意欲や興味が広がります。建物南側の広い縁側スペースは、誰でも気さくに立ち寄り、腰掛

けて休憩できる場所です。外で遊ぶ子どもたちを見守りながら、地域の住民と施設利用者が交流できる場となります。また、室内の子育て支援の活動の様子が見えることで、新たな利用の促進につながります。次にテーマ2、就労・子育てが効率よく遂行できる施設の工夫について説明します。平面図です。建物は1階の共用エリア、子育て支援エリア、2階のワークエリアの大きく3つのエリアに分けています。最初に1階の子育て支援エリアから説明をします。子どものエリアが効率よく遂行できる工夫として、私たちは、小さな居場所がたくさんある大きなワンルームの空間を提案します。まず子育て支援は大きなワンルームとしていて、広く使用するときは、現在の町民会館の子育て支援室に廊下を足したぐらいの面積、約185㎡を確保できます。一方、託児のみの利用の際にはスペースを限定し、少人数の保育士さんでも見守りやすい部屋のサイズにすることができます。スペースの兼用で、託児と子育て支援をコンパクトに両立します。次に、ワンルームは活動リズムに応じて静かなエリアと活動のエリア、大きく2つのエリアに分けます。分けることで、子どもたちは安心して時間を過ごすことができるようになり、自然に生活のリズムも身に付きます。そこからさらに細かく、さまざまな活動に合った居場所をつくります。現在催されているなかよし広場のイベントはもちろんのこと、新しい活動への想像力をかき立てるさまざまな空間を用意します。こちらは、子育て支援の入り口からプレイルームを見た様子です。大きな空間の中にさまざまな居場所があり、活動の内容に応じてそれに合った居場所を選ぶことができます。ワンルームは、プレイルームからデッキ、園庭まで連続した空間です。こちらは絵本コーナーからデッキのほうを見た様子です。プレイルームは段差なくデッキとつながり、気候の良いときには建具を開けて、デッキと一体で利用することができます。その他の部屋として、事務・キッチンには腰の高さで見通しを良くします。こちらの明るい南側にカフェカウンターとランチスペースがあります。こちらは、カフェカウンターとランチルームの様子です。子育てのイベントでおやつをつくったり、その後お茶を飲んだりしながら保護者同士の交流の場になります。幼児便所のほか、お母さんと子どもが安心して入れる親子トイレを設置します。会議室は畳にすることで、将来期待される子育てサークル活動や、ほふく・お昼寝など、さまざまな使い方に対応できます。次に共用エリアです。共用エリアでは、玄関ポーチ脇にベビーカー置き場を設けます。母子保健相談室は入り口近くに設け、プライバシーに配慮しています。続きまして、2階のワークセンターの説明に入ります。ワークエリアでの私たちの提案は、将来にわたって使い続けられる可変性のある仕事場をつくるということです。まず、2階は大きく就労相談・コミュニティーエリアとワークエリアに分かれています。階段を上がってすぐのところはコミュニティースペースと事務カウンターになります。掲示板による情報発信や就労相談、利用者同士の交流の場になります。次にワークエリアです。ワークエリアでは、多目的会議

室とワークスペースを隣接させ、可動間仕切りで仕切ることで、会議室の利用がないときには広く利用することができます。こちらは、多目的会議室から全体を見た様子です。可動間仕切りを開けた状態で、奥のワークスペースが見えています。ワークエリア全体で約 60 畳もの広さがあります。次に、ワークエリア内にさまざまな働き場所をつくります。個々の仕事内容や仕事の仕方に合わせて、またその日の気分によって、仕事の場所を選ぶことができます。こちらは、他の人と時々コミュニケーションを取りながら仕事がしたい人向けのミーティングスペースです。こちらは、仕事の間についたてを設け、集中して仕事がしたい人のための静かな個人作業エリアです。こちらは、裁縫や編み物ができる手作業専用の部屋です。こちらには、起業した人たちがチームで話し合いながら仕事ができるグループの個室になります。こちらは、電話をしながらパソコン作業ができる個人ブースです。このように、個々に合った場所で集中して仕事に取り組むことができます。次に、将来の仕事の変化に対応できる可変性についてです。ワークエリア内は柱や固定の壁は設けず、全てパーティションで仕切ります。将来グループでの仕事や電話会議の仕事スタイル、電話会議の仕事スタイルが増えた場合など、働き方の変化に応じたスペースに変えることが可能です。また、要綱にはありませんが、エレベーターの設置を提案します。車いすの人も就労相談に来られる、仕事ができる建物にしておくことが望ましいと考えます。最後にテーマ 1、景観と安全安心の工夫について説明します。構造は、地元の木材を使った木造とし、天井の小屋組みを見せて木造らしさを出します。構造計算により、十分な耐震性能を確保しながら、防火性能にも配慮します。断熱については高断熱化を図り、冬は飯綱産の間伐材を使ったペレットストーブで、子どもたちを暖かく迎え入れます。雪への対策としては、玄関は屋根からの落雪がない安全な出入口とし、屋根勾配に合わせ、建物周りには十分な堆雪場を確保します。外構での安心安全対策としては、緑の広場と駐車場の間にはフェンスを回し、子どもの飛び出しを防ぎます。不審者の侵入に備え、北側に避難動線を確認します。最後に、景観への配慮についてです。屋根は周囲の建物に合わせた切妻屋根とし、ふれあいパーク全体の一体感をつくります。軒を低く抑え、ボリュームを落とした落ち着いた空間と、かわいらしく親しみの持てる外観で、家にいるような居心地の良い建物とします。以上で計画説明を終わります。

アーキプラン：私のほうから、動画で建物の説明をさせていただきます。赤い勾配屋根が印象的な建物です。前面には、アスレチックで遊ぶ子どもたちの様子が見える開かれた園庭があります。施設を訪れる親子は、園庭を眺めながら建物にアプローチします。ベビーカーを利用のお母さんも段差なく来ることができ、こちらにベビーカーを置いて玄関から靴を脱いで中に入ります。そして、こちらから子育て支援エリアです。地元の木材を多用した温かみのある空間です。大きなワンルームの中に、子どものほふくにも使える

畳の会議室、カーペット敷きのゆったりとした絵本コーナーなど、活動に合った居場所をつくり、思い思いに過ごすことができます。プレイルームとデッキはフラットにつながっていて、子どもたちを園庭へといざないます。南側のデッキに面したランチルームとカフェカウンターは、子育て支援に来た親子同士が、お茶を飲みながらおしゃべりすることができます。一方、仕事のあるお母さんは、子育て支援エリアから共用部を介してこちらの大きな開口から光が入る明るい空間で一度気持ちをリフレッシュし、ワークセンターへ向かいます。階段を上がってすぐのところには就労相談があり、気軽に立ち寄ることができます。コミュニティスペースでは、仕事の合間に園庭で遊ぶ子どもたちの様子を眺められ、就労情報も確認することができます。また、階段の北側からは斑尾山と飯綱の町並みを望むことができます。ワークエリアは、ガラスのパーティションで仕切られています。一人ですべて集中したいときには奥の静かなブースで、起業などグループで話し合うときには、窓際のグループ個室を利用します。また、中央の大きなテーブルでは、周りの人とコミュニケーションを取りながら仕事ができるなど、明るい空間にさまざまな働き場所があるワークセンターとなっています。以上で、提案内容の説明を終わります。

事務局：それではざくばらんに意見交換をしていただきます。もう一度バーチャルビューを見させてもらいたい。

委員長：快適な空間で、素晴らしい施設になるということは分かりました。ワークセンターと子育て支援センターが、うまく上手に分離されているということも。

アーキプラン：ベビーカー置き場は下屋の下に入っています。

太田教授：ベビーカーは、何台ぐらい置ければいいですか。

委員：見たことはないです。

委員長：みんな抱っこしてきますか。

委員：置く場所もないなと思って、みんな抱っこしてきます。

アーキプラン：本棚は移動家具になっていて、それで簡単なコーナーをつくる、仕切りをつくれます。

委員：荷物をどこに置きますか。お母さんたちは結構荷物が多いから、置く場所がないと困ります。結構大きな荷物があります。

委員：オムツやかお弁当などを持ってくると結構な荷物。

アーキプラン：荷物の入れる場所ですが、共用スペースとって、1階の左側の上の端のところにロッカーがあります。こちらがロッカールームということで、そんなにたくさんは入らないですが、コートを掛けるようなハンガーを置いたらどうかというところで、このようなスペースになります。あと、これで足りなければ、子育て支援の中にも移動家具とか壁面に収納を設けて、その辺りに入れていただくと考えています。

委員：オムツは手元に。飲み物も。

委員：この会議室の横の収納と書いてあるところですが、それはその設備での収納なの

か、お母さんたちが使える収納場所なのか。

アーキプラン：いいえ、畳の会議室ですが、座卓を置いたりする予定なのですが、もし広く使うときには、この椅子とか机をこの収納の中に入れてしまって広く使うことができる。余った部分は、掃除機なり何でも、雑多なものがあるかと思うので、ここの大きな収納は管理上のものです。

委員：会議室は畳なのですか。

太田教授：子どものほふく室を兼ねるということですね。

アーキプラン：はい、そうです。

太田教授：会議しないときはオープンになっていて、畳のスペースがあつてということですね。

アーキプラン：そういうことです。

太田教授：収納がちょっと足りないかもしれないですね。お母さんたちの荷物は、例えば壁に引き出しのようなものを付けて入れるところもあるし、それから椅子を運んでおいて、ふたを開けて荷物を入れるというやり方をやっているところもありますよ。椅子をもし置くなら、そういう椅子だったら、可動式だしいと思います。ランチスペースというのはどれぐらいの頻度で使うものですか。

委員：このキッチンというのは何ですか。何のため。

アーキプラン：子育て支援でおやつを作る活動のためのものです。それ以外のときは、いつでもお母さんたちがお茶を飲んで休憩していただく、自由に使ってもらっていいキッチンというので位置付けています。

委員：キッチンは、手洗い場みたいなものでも使ってもいいですか。

アーキプラン：手洗い場は別に2つあります。

委員：あと、暖房はペレットストーブだけですか。

アーキプラン：いいえ、基本的にはエアコンで考えています。あくまでも、ペレットは補助暖房と考えています。これがなくても、きちんと冷暖房できるようになってきます。

委員：床は、つるつるの無垢材ではないですか。

アーキプラン：フローリングで、できれば無垢材を使いたいと思っています。飯綱産の木材がたくさんあるそうなので、できればそれを使っていきたいと思っています。

委員：床暖ではないのですか。裸足の子が多いから、エアコンだと冷たいかな。

アーキプラン：コストとの兼ね合いですが、お金が許せば床暖が一番いいと思いますが。

委員：できれば裸足で遊ばせたいのですが、床暖を入れるのは、値段的に無理だとすればどうしますか。

委員：ホットカーペットはどうでしょうか。

委員：ホットカーペットだとダニの問題とか出てくるのでは。

太田教授：柔らかめの木だと温かい感じがあります。

アーキプラン：キリとか、暖かい材質を使うようにします。

委員：転んでもけがないような材質で。

委員長：畳以外は全部木ということですか。

アーキプラン：休養室も畳です。

アーキプラン：トイレは長尺塩ビシートとあって、水に強い素材になります。

委員：トイレは男性も全部共用ということですか。

アーキプラン：多目的トイレはどなたでも利用できます。もし男性用が必要となれば、もちろん変更可能です。

委員：例えば、2階を利用される方で男性という方は、1階にお願いする形になりますか。

アーキプラン：そうです。

委員：男性はそんなにいらっしゃらないですけども、今後分かりません。

委員：今のワークセンターみたいに入り口が別々なら、男性も女性も入れるコンビニのトイレのような感じはいかがですか。

アーキプラン：2階に男性はどのぐらいいらっしゃいますか。

委員：本当にめったにいらっしゃらないですが。

委員：スタッフとか、先生でも男性の方がいらっしゃるし、セミナーの講師の方とか、そうですね。利用者では少ないですが。

太田教授：大人は下のトイレを使ってもらっていいじゃないですか。

委員：でも、お父さんが支援センターに連れてきたら親子トイレは一緒に使ってもらって。

太田教授：この子ども用のトイレの一番左端にあるのが、大人も使える単独のトイレですね。

アーキプラン：そうです。これは保育士さんも使います。

太田教授：わかりました。

委員：託児の子を預かる専用の部屋が欲しいと思います。支援センターに遊びに来ている子と一緒にいたら分からなくなっちゃうというのもあるし、保育士・スタッフも最初は1人しかいないので、もう一人が来るまでの間は何人来るか分からない。5人来るときもあるので、1人で5人をこのプレイルームでバーッと放置させたらもうどうしようもないので、最初は1つの部屋に入れて、保育士が来るまではそこで待機させるようにしたいので、1つ部屋が欲しいと思います。そこでお昼寝もさせたいので。

アーキプラン：休養スペースが使えますか。

委員：ちょっと狭い感じがします。

アーキプラン：休養スペースで6畳あります。

委員：それならばいいと思いますが、お昼寝が始まったら、このスペースは支援センターに遊びに来た子は使えないとなってしまいますか。

委員：授乳もそうです。

委員：授乳なら支援センターのお母さんがしたい。

太田教授：授乳はワークセンターのお母さんは要らないのですか。

委員：要ることもあります。ワークセンターで3~4カ月で託児をされていて、たまにおっぱいをあげて、また仕事に戻るお母さんもいるので。逆にして入り口を2つつくる。オムツを奥にして、授乳を手前にして入り口を2つつくるとか。

委員：入り口が2つあればいいのか。キッチンというのは要るのか。

事務局：離乳食講習会かあるいは料理教室のようなものはどうですか。近隣の支援センタ

一に見に行ったときに、調理室もあり、そこで離乳食講習会や料理教室をやっていました。そこでお昼を食べてもらうスペースも兼ねてはどうでしょうか。そこまで必要でなければ、シンクとガスレンジと電子レンジくらいでいいかと思いますが、いかがでしょうか。

委員：町民会館の厨房は、もう使えなくなるのですか。

事務局：使えます。ただし、移動していただくようになります。

委員：講習会となると離乳食だから赤ちゃんなので、ここに来ても結局一緒にいないといけないから、そんなにここを使う必要はないかと。

太田教授：調理関係をやろうとすると、器材が家庭にあるようなちょっとしたものだけだと足りないと感じます。

事務局：町民会館は、シンクと大きいガスが幾つもあるから、4人ぐらいの1グループでできます。

アーキプラン：今キッチンの幅は3メートルです。3メートルというと、家庭用では少し長いほうかと思います。だからその辺で工夫して、この後ろに、若干食器棚とかあるいは電子レンジなどを置くぐらいのスペースは取れます。

事務局：電子レンジやコーヒーやお茶のセットなどを置いて、自由に飲んでいただけるようにしたいと思っています。お金を払わず、自由に使っていただけるようにしたいと思っています。料理教室や離乳食講習会などは、町民会館で別で行ったほうがよろしいですね。

太田教授：基本的なことですが、ここは毎日開いているという前提でいいですか。

事務局：これからの検討ですが、お休みの日も開放することも考えています。

太田教授：平日は開いているということですね。

事務局：基本的には月曜日から金曜日までの9時から4時。平日は開いています。

委員：土日はワークセンターの託児は無理だと思います。支援センターだけなら基本親が見ているから大丈夫ではないでしょうか。

委員長：今、キッチンについての要望が出ましたが、他にありますか。

太田教授：使わないおもちゃや物を入れる場所というのは、この収納以外に何か考えられますか。

委員：この部屋の真ん中にある四角い幾つか置いてあるのは、可動する収納と考えていいですか。

アーキプラン：そうです。子どもの視線は確保しつつ、大人は全然見えないというもので、90センチから1メートルぐらいです。

太田教授：絵本コーナーですが、棚は、絵本の表紙が見える置き方ができる配置を少し考えてもらいたい。季節ごと入れ替えしないと駄目です。

委員：ウッドデッキのほうにも少し靴を置けるスペースがあればいいと思います。

アーキプラン：ウッドデッキのほうから園庭にも出られるように。

委員：ウッドデッキに行っても、そこから靴がなければ外に出られず、そこから中に入るといったときに、どうしても靴はそのまま置かれてしまうので、靴箱か何か収納できるものがあればそこに入れて、誰のか分からないということもないのかと思います。

アーキプラン：基本的に出入りは玄関と考えていました。ウッドデッキからの園庭の出入りはなく、ウッドデッキというのは室内と同じ扱いでと考えています。

委員：ウッドデッキは、雨が降ればそこは濡れてしまうということですか。

アーキプラン：ちょうど板の部分までひさしが出ていますが、吹き込めば手前は濡れてしまいます。

委員：荷物の件で一緒に考えればと思ったのですが、お母さんたちはオムツや飲食や荷物がとても多いので、このポーチから入って奥のほうにあるのは職員の方のロッカーなのか、それともお母さんたちや子どもたちの上着などをしまえるところなのか疑問に思ったのと、靴の観点で言うと、ウッドデッキに出入りする辺りに荷物専用のロッカーがあるといいと思いました。

アーキプラン：左上の隅のロッカーですが、職員の方でもお母さんたちでも使ってもいいかと思っています。今後、少しずつ今のような細かなお話しをしながら、決めていきたいと思います。皆さんの荷物が多いのはお聞きできたので、今後どこに収納を設けていくかというのは、相談で決めていきたいと思います。

事務局：部屋の端に、窓から下ぐらいのところ、誰が入れてもいいように。近隣の支援センターは、おもちゃの裏側が保護者の棚になっていて、そのまま室内という感じですよ。

委員：靴を入るときにビニール袋を置いておけば、お子さんの靴を入れて、一緒にロッカーに置いて、帰りにビニール袋を返して帰るといった形で対応できると思います。

事務局：ウッドデッキについては、どうしても経年劣化していきます。コルクだと夏場も素足で歩けます。

アーキプラン：良ければ写真等を見せていただければ参考にします。

太田教授：砂場では裸足で遊んだり、水遊びをしたりしたときも、基本動線は玄関からの出入りですか。

アーキプラン：はい。

委員：とても玄関が汚れます。

太田教授：ウッドデッキ側からも出入りできるようにしたほうがいいですよ。

委員：外水道が欲しいです。

太田教授：ウッドデッキでの水遊びもできそうです。日影もできます。

委員：わざわざテントを立てたりとかしなくていい。

委員：幅は何メートルぐらいですか。

アーキプラン：広い部分で奥行きが約3メートル、ランチスペース側は1メートル30～40センチぐらいです。

委員：私は、あまりウッドデッキからすぐ外に行けるようにしたくないです。ちょっとついていけない。

委員：出入りはやっぱり玄関というふうに決めたほうがいい。ウッドデッキからも出入りされると目が届きません。

太田教授：ウッドデッキから落ちる心配はないですか。

委員：外遊びの時間で自由に外に行く子と、中で遊ぶ子と分けれたりしませんか。

委員：中と外とで行かれてしまうと、やはり保育士の目が届かない。

事務局：基本的に、子育て支援センターは保護者と一緒なので、ウッドデッキに行かれても必ず保護者さんが行くということで、顔面から落ちるようなことは想定していませんが、託児の場合は「あれ、いつの間に」ということも起きるかと思います。

委員：ウッドデッキに、柵があったほうがいいですか。

委員：ランチスペース部分を柵で囲うイメージで囲いたい。

委員：託児のためのランチスペースが欲しい。

委員：託児の子が拠点にする場所がもう少し広くあるといい。

委員：ご飯も昼寝もそこでいいから、遊ぶ場所は共用がいい。

委員：託児の子は保育士と一緒にこの休養スペースで食べる。早く食べ終わった子は、今は同じスペースにいるから少し遊んでいて、布団も敷いてあればごろんとしたい子はしていてという状況。この6畳だと、狭い感じはします。

委員：預かる人数にもよります。日によって違います。

委員：1人や2人だったらいいが、6人くらいとなると狭い。

委員：託児には、たまには小学生も来ます。

委員：春休みとあと、月曜が振替休日とか。幼稚園の年長さんとかも来ると、ちょっと一緒にいられない。

委員：託児のメインは未満児さんになるから、その子たちに合わせたリズムで見やすいように。元気な子がいるところからちょっと離れて、静かな感じで見られるところじゃないと難しい。

事務局：託児用の休憩室が必要でしょうか。しかし、子育て支援センターに来たお母さんたちの休むところも必要なので、それは別の場所でしょうか。ランチスペースもお昼を食べないときは机を外しておいて遊べるスペースにしたいと思っています。

委員：トイレの位置とランチスペースの位置を変えたらどうか。休養室とランチスペースが隣になる。

委員：光が入る一番いいところにトイレがあるのはもったいない。

委員：休養というところで、託児の子たちはお昼寝をしているということですね。そのときには授乳室は使えないということですか。

事務局：やはり変えたほうがいいと思います。

委員：休養は奥がいい。

太田教授：オムツと授乳が手前にあって、奥に休養スペースがある。

委員：休養室が託児の子たちのための話になっているけれども、そもそもの使い方からすれば、このままでいいかと思います。

委員：そうですね。もう少し託児のスペースを取ってほしい。

委員：休養室は、何に使うのですか。

太田教授：疲れて寝る子が使えます。お昼寝も。

委員：お昼寝している間は、お母さんは何をしているのですか。

委員：基本的には一緒にいます。

委員：2人連れてきて、1人は生後何カ月という子の場合は休養室、それとも別の場所にベ

ビーベッドですか。

委員：畳のスペース、会議はないと思うので、ここに寝かせられます。

太田教授：それは一つの手ですね。畳スペースに寝かせておく。

委員：支援センターはお母さんと一緒に、お母さんの責任で見ているから心配ないと思います。ワークセンターは託児として全部の機能が使えるということです。

委員：託児の子が遊ぶときはいいですが、専用の部屋が一切考えていない。

委員：託児用の部屋は欲しい。休養室なんて要らないのでは。赤ちゃんを置いておいて上の子と遊ぶなんて考えられない。

委員：今もしています。

委員：私もしていました。

委員：託児の先生のほかに、支援センターの先生も数名はいるのだから見ていられる。

太田教授：ベッドを用意していただきましょう。

事務局：ここに広い会議室は必要ないと思います。このスペースは畳の部屋にして、アコーディオンカーテンなどを付けて、子育て支援センターを利用しているお母さん方が、お子さんと少し休みたいというときにここで休んでももらえれば、そうすれば託児のほうは託児のほうで、お昼寝室などをつくったほうがいいです。

委員：そうしてほしいです。

委員：授乳室とオムツ室、パーティションで仕切りさえすれば、別に部屋としてなくてもいいです。

委員：会議室の中に授乳のためにカーテンさえあれば。

太田教授：授乳室とオムツのコーナーを、収納の辺りに持ってくればいいことです。会議室は取って、収納の壁を少し膨らませてやればいい。

委員：トイレは独自に1個欲しい。

増田委員：入り口も変更してほしい。

委員長：それでは、少しずつ決まってきました。では、総括してどんな案としますか。

委員：基本的に託児の子どものお部屋は1個取ったほうがやりやすい。6畳の休養室くらいよりももう少し広い部屋が欲しい。

委員：休養室プラス授乳・オムツ替えのスペース。

委員長：広さを確保していただいて、あとは授乳室とオムツ室はどこになりますか。

委員：それは会議室のほうにしてほしい。

委員：スペースがあれば、部屋でなくてもいいと思います。

委員長：会議室は要らないですか。

事務局：会議室は要らないので削除してください。

アーキプラン：畳のコーナーとしては必要ということで書いてありますが、会議室の名前（機能）はどうしますか。

委員：畳は欲しいので残してください。

アーキプラン：畳は残して、会議室としません。

事務局：フラットにして畳にしてください。

アーキプラン：この座卓等も要らないですか。

事務局：要らないです。

委員：セミナーなどの会議はできますか。

事務局：会議をやるとすれば二階もありますし、健康相談も毎日やるわけではないので、問題ないと考えます。

委員：託児の部屋の中にトイレと手洗いが欲しくないですか。

委員：絶対欲しいです。

委員：1人になったときにいつも、「トイレ行きたいので見ていてください」と呼んで、子どもも、外へわざわざ出て行ったらまたここで遊びたくなってしまいます。

委員：ここの仕切りをなくせばいい。

アーキプラン：休養のほうからもトイレに入れるような造りですね。トイレの数はいかがですか。今、子ども用の大が2、小が2です。

委員：いいと思います。

委員：多目的トイレは1つですか。

アーキプラン：はい。あと親子トイレも使っていただけます。機能的には2つです。子どもだけの小さい子の大便器が2つ、あと小さい子の小便器が2つ。それからその隣はシャワーです。それからその横がSK流し、掃除具流しです。その隣が大人用の大便器となっています。

委員長：このエリアは全部トイレだそうです。

アーキプラン：いきなり託児エリアからトイレへ入るのではなくて、手を洗うところは、踏み込みというか、前室です。前室スペースがあって、そこから親子トイレとか子どものトイレに入る。

委員長：おトイレは、こんなに要りますか。多目的プレイルームの上（北）がトイレで、親子トイレが右、左も親子トイレ、その奥に大人用のトイレ、その横がシャワー、その右の小さいのが子ども用の小便器と大便器。そうすると、大人用は3つ。そんなに必要なのか。トイレでスペースが使われてしまっているのでは。ご意見いかがですか。

委員：親子トイレがあるから、支援センターに来た人は、親子トイレが空いていればそこでいい。それで、子どもだけ行きたいときに重なっていたら、こっちの子どもトイレを使うけれども、2つずつなくてもいい。1つずつでもいい。立ち1個、座り1個でも。託児の子も使うけど、2個も要らない。

委員：来る人の人数にもよりますが、トイレのスペースが結構広いかと思う。収納やロッカーのスペースに変更しては。

委員：支援センターがこうやって新しくなる。新たな利用者も増える。これぐらいは欲しい。

委員：これぐらいあったほうがいいね。

委員：現状の利用者で考えていました。

委員：トイレは多いと思う。

委員：子どもも減っていく一方。

委員：悲しい現実ですが、1学年50人もいない。

太田教授：1個大人用のトイレ分ぐらいは削ってもいいのでは。

委員：親子トイレは1つでいい。

アーキプラン：園児用のトイレはいかがですか。

委員：子どももそれぐらいあれば、2でもいい。

アーキプラン：未満児の子が多いとお聞きしました。そうすると、おむつなのであまり使わないでしょうか。

委員：1個ずつでもいいのかと。

委員：託児の子が使う可能性はある。でも、年長さんぐらいなら大人のトイレでもできる。

委員：小さいのでしたいのは、トイレトレーニングしている子ぐらいです。

委員：親子トイレでも小さいのがあります。

委員：ここの2個を減らしたほうがいい。

太田教授：どちらかというベビーキープ。大人のトイレがあって、赤ちゃんを座らせておくシートがあるほうがいいのでは。

委員：そう思います。

太田教授：あるいは、親子トイレの中に壁に付く収納型のオムツ交換台を付けてしまうという手もあります。1つ子ども用の便器は取ってしまう。

アーキプラン：親子トイレの中でオムツを交換してしまうということですね。

太田教授：2つあるから、1つはオムツ交換台を壁に付ける。使い勝手はどうか分からないですがいかがですか。

委員：いいと思います。いつも支援センターで小さい子が、うんちが出たら「先生、ちょっと見ていてください」とトイレに捨てに行っていたので、トイレでできれば早くていい。

委員：そうですね。便とか流すのにどっちみちトイレに行く。

委員：親子トイレの中に付けると、オムツを替えている間は大人が入りたいときに入れにくい。

太田教授：会議室の一角でオムツを替えるよりはいい。

アーキプラン：オムツ交換の部屋は要らなくて、親子トイレをもう少し広げて、そこにオムツ交換台を設置するほうがいいですか。

委員：それか、親子トイレは2つあって、子ども用のトイレのところにオムツ交換台を2つ付ければどうか。

委員：子どものトイレの数を減らすなら、親子トイレが2つあったほうがいいのではないかな。

委員：スペースは変わらない。

太田教授：オムツコーナーのスペースは空いてきます。

委員長：子ども用のトイレのところにオムツ交換台を置くということでもいいですか。そうすると、授乳室が残り、畳スペースが少し広がる。

委員：授乳室はなくていいです。カーテンで仕切るスペースがあれば。

委員長：わかりました。

太田教授：休養スペースを広げて、そこに託児の子たちの拠点にできます。

委員：プラス、トイレと手洗いが欲しいです。

委員長：トイレはこちらに付けることはできますか。

アーキプラン：例えばここを廊下側など、入口を変更すれば可能ですが、いかがですか。

委員長：この託児エリア内の授乳室とオムツ台のスペースをなくして、子育て支援エリアの会議スペースに、授乳のためのカーテン等の間仕切りを入れる。また、オムツ台は多目的プレイルームの上の親子トイレの上に。子ども用のトイレはなくしておむつ台を入れる。そして、授乳とオムツがなくなったので、そのスペースを広くして、大人用のトイレは、残すということにします。

一同：承認

事務局：ウッドデッキについて、木材ですので劣化し弱くなる心配があります。出入りの下足箱等も必要。例えば全くなくしてしまっ、コルク材を敷き詰めて夏場のプール遊びのスペースにしたらいかがでしょうか。また四角の形状の方が使いやすいと思われま。

アーキプラン：角ができると、子どもが行きたくなる場所をつくれます。そうすると、南の間口があったほうがプラン的にはいいです。ウッドデッキをやめてコンクリートの上にゴムチップ等を施工し夏場でのプールが可能です。しかし、屋根があったほうがいいです。

委員：確かに日差し除けは必要です。

太田教授：ウッドデッキから地面の段差は子どもでも下りられるように、斜面を付けるというのは可能ですか。

アーキプラン：ウッドデッキに腰掛けて、こちらのみんなの広場を眺めるということを考えていたので、30センチぐらいです。ウッドデッキをやめてコンクリートの上にゴムチップをやった場合には、すり付けができますので、なだらかなスロープでつながっていくことは可能です。階段状にも可能です。

太田教授：階段ではなくて、スロープがいいです。あるいは、床自体を下げて高さを合わせるとか。玄関から出入りをさせようと思っても、ウッドデッキのところから出入りをするというのがたぶん自然に増えてきて、みんな玄関に回ってという話はちょっと難しいかもしれません。なるべくウッドデッキは屋根がかかる部分はあって、屋根がかかって水遊びができて、建物と地面の差を何とかなくすほうがいいです。そして砂場とかで遊んで足を洗ったら、やっぱりウッドデッキ側から入ったほうがいいと思います。

委員：掃き出し窓になっていると出入りが自然となってしまうので、ウッドデッキ側から出入りさせないのであれば、普通の窓にしておかないと難しい。1人がやり出したら、次々となると思います。

アーキプラン：子育て支援エリアから屋根のかかったテラスの部分に出入りしないということになれば、そこで段差をつけてテラスをさらに下げて庭と平らにつながるようにすればいいと思います。それで、子育て支援エリアから外部のテラスには、掃き出しサッシでも出られないように手すりを付けるなど、出入りできない工夫は可能です。屋根のかかったテラスが、どちらかというと中から使うというよりも、外部の公園の一部のような感じで使われていくということになれば、テラスをぐっと下げて、屋根のかかったテラスが公園の一部に参加している感じにもできます。

太田教授：そうしたら開放感がない。中側から見ると、少し狭苦しい。

委員長：景観はどうですか。

委員：出入り口とすれば靴箱を置くことになってしまう。

太田教授：靴箱を置かなくてもウッドデッキの端っこに靴を並べたらどうですか。何十足もならないでしょう。

委員：近隣の支援センターでは園庭に出るのに下駄箱がなくて、玄関から靴を持って行っていましたが、面倒くさかったです。泥が付いている靴を持っていったり、冬だと雪が付いたまま、また玄関に持っていくのにポタポタと垂れたりしました。

栗田委員長：さみずっ子保育園も、子どもが靴を持って長い距離の廊下を歩きます。やはり泥が落ちます。できれば検討してほしい。

太田教授：ウッドデッキに柵をつくってはいかがですか。ウッドデッキから先は出られないようにしてやれば、管理上は楽です。

委員：公園の一部ではなくなってしまうが。

委員長：良いご意見が出ましたけれども、管理上は大変です。フラットになると出て行かれてしまう。

太田教授：ウッドデッキまでは出られるようにしておいてあげれば、多少外に出て遊ぶこともできるし、水遊びもできる。ウッドデッキの手前で止めてしまうと、外に全く出られなくなります。だから、ウッドデッキでもいいし、なだらかにしてもいいし。外に出るときは玄関を必然的に使う。ウッドデッキにも、一部出入りできる場所はつくったほうがいいです。

アーキプラン：先生が言われたとおり、やはり室内から出られるようにして、手すりを回し、一部の手すりから外へも出られる。この柵に戸を付けて、手すりを回して自由に外へ出られないようにする形も取れます。

太田教授：キッチンのところから、柵を回すこともできますか。

アーキプラン：できます。落下の危険もなくなります。管理上も非常に中を汚すこともないです。

太田教授：玄関の広さは十分ですか。

アーキプラン：玄関の間口は一間半、2メートル70センチです。この片側に下足箱、10センチぐらいの段差がありますので、スロープで上がるようになっています。

委員：あえて段差があったほうが、靴を脱いだり履いたりするのが分かりやすい。

太田教授：靴を脱ぐということが、子どもにとって分かりやすいです。

アーキプラン：1階の下駄箱は何人分ぐらい必要ですか。

委員：ワークセンターを利用される方の分も必要です。

太田教授：少し狭いような気がします。相談室の位置を変更してスペースを確保できればいいですが、個別相談を受けるときに、やっぱり個室がいいという人もいます。でも、玄関が広いと気分がいいですね。例えば、エレベーターをなくして相談室にどうですが。

アーキプラン：2階のテレワークの関係を考えたエレベーター設置の提案です。どうでしょうか。

太田教授：エレベーターは必要ですか。

委員：私は必要ないと思います。

委員：車いすの人が、本当はここに来て働いてみたいと思っても、上がれないからあきらめるということがあるかもしれません。障がい者も受け入れますよという姿勢は必要です。

アーキプラン：この費用のことから言いますと、エレベーターを設置するときに、6人用だと今、大体400～500万最初にかかって、月々のメンテナンスがだいたい4～5万かかります。大体エレベーターは15年から18年すると、駆動部のモーターからロープから全部取り替えなければ駄目です。また400万ぐらいかかります。この17～18年たってから替えなきゃいけないというのが、皆さんほとんど抜けてしまっています。設置者にとっては、少しびっくりするような金額が長い間にかかってきます。費用対効果で提案どおりやったほうがいいのか、あるいはこのスペースを、例えば玄関とかあるいは収納というのに振り向けたほうがいいのか。

委員：階段にスロープはつくれませんか。車いすを押してあげる。

アーキプラン：階段に昇降機を付けるものもあります。

事務局：現在の共同調理場に付いています。階段は直線ですが。2階に身障用のトイレがないのはいかがですか。

アーキプラン：私どもの考えは、エレベーターで1階に下りてもらって、1階の多目的トイレを使ってもらう提案です。必要とあれば可能です。

委員：そうすると、どんどん収納がなくなります。

委員：ワークスペースも、収納が必要です。

委員：ワークスペースの話になってしまいますが、お昼を取るとき、1人で食べたいという人もいます。円卓だと嫌だという方がいます。

アーキプラン：現在はカウンターです。

太田教授：2階の相談スペースというのは、結構使うものですか。

委員：就労相談には月4～5人はいらっしゃいます。

太田教授：4～5人であれば、健診相談もここで一緒にできませんか。健診相談で個別にというのはほとんど使わないですよ。個室での健診相談とか子育ての相談とかというのは、そんなに件数ありますか。

事務局：頻繁にはありませんが、保健師等の支援会議なり、当事者と関係者が入る場合があるますのでそのためですが、2階の相談室も使っても大丈夫だと思います。しかし相談はプライバシーを守ろうということで、他の利用者に全く会わないで個室で相談できることが安心ということなんです。

太田教授：2階を使っても、別に問題はないですね。

事務局：はい。

委員：兼用してもいいですか。

事務局：同じ建物の中なので、臨機応変に使用していただいて構いません。

太田教授：それなら玄関スペースを目いっぱい取れば5メートル40。そんな広くなくてもいいのかもしれないけれど、入ってから横が広ければいい。

委員：身長と体重を測ったりするのも、ここでやりますか。

委員：無理です。健康管理センターですね。

委員：健康管理センターの定期検診でなくて、子育て支援センターでやっている、なかよし広場の測定は。

太田教授：託児エリアの広いところでできます。

委員：畳のスペースでできます。

委員：子どもの育児相談などをやるときに、結局お母さんと離れられなくて、子どもも一緒におもちゃを持ってこっちへおいでとよくやっていたから、それは2階のその相談室で、下に座れなくて机と椅子でとなったときに、子どもはどうだろうか。

委員：誰もいなければ託児の部屋を借りればいい。

太田教授：2階でそれもやると考えれば、2階の相談室のレイアウトを変えてもらえばいい。可能ですか。

アーキプラン：可能です。

委員長：これで玄関がかなり広くなりました。

太田教授：玄関の靴を脱ぐところを、冬だけ床暖を入れるというのはできますか。置いておいたら雪が溶けるような。予算が関係しますが、冬のことを考えると、玄関やロッカーがドライエリアになるといいと思います。

委員長：まだまだたくさんの要望、それから気付くところがたくさんあるかもしれませんが、時間の関係で現段階はここまでということでお返ししたいと思います、いいですか。

事務局：今日は皆さんにいろいろなご意見、ご提言を頂きましたが、イメージ反映シートを用意しました。シートごとに、全体配置のイメージ、園庭、1階、2階、と分けています。今まで、意見できなかったことなど重複してもいいので、メモ書きの形で結構ですので書いていただきたいと思います。次回以降それらを反映してもらおうという形にしたいと思います。できれば早めに頂戴したいと思うのですが、実は昨日担当職員も同じような作業をやっていて、それもまとまったところで、アーキプランさんのほうへ早くお示ししたいと思います。このシートは今月中までには頂戴したいです。予定では来月皆さんに集まっていただくということでもいいですか。

一同：承認

事務局：今月中までにイメージ反映シートのご記入ご提出をお願いします。ご提出はワークセンターのスタッフもしくは、子育て支援センターのスタッフに渡していただいても構いません。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局：それではありがとうございました。宿題を申し付けてしまいましたが、ここで一回まとめさせていただいて、アーキプランさんをお願いし、次回はそれを盛り込んだ図面で、またご足労していただきたいと思います。

アーキプラン：この次の打ち合わせを、できればお盆前に皆さんの意見も盛り込んで、それで修正した平面プランを、できればお盆前に一度打ち合わせさせていただければと思っていますが。

事務局：お盆過ぎでどうでしょうか。イベント等もあるので。

アーキプラン：皆さんのご都合で、お盆過ぎのほうがよろしいですか。

事務局：それではお盆過ぎに次回を開催してまいりたいと思います。日程につきましては、
また調整させていただいてご連絡したいと思います。よろしくお願いいたします。

副委員長：閉会の挨拶の言葉あり。皆さんの意見を聞いていると、ここはこうしたほうが
いい、あそこはそうしないといけない、というところが出てきました。また回
を重ねて、皆さんの意見を一つにまとめていけたらいいと思っております。今
後とも、またよろしくお願いいたします。

一同：ありがとうございました。